



登山道の安全を考える -白馬大雪渓ルート的事例から-

信州大学山岳科学総合研究所編

発売 オフィスエム

2009年7月11日発行 定価933円(税別)

A5版96ページ 並製

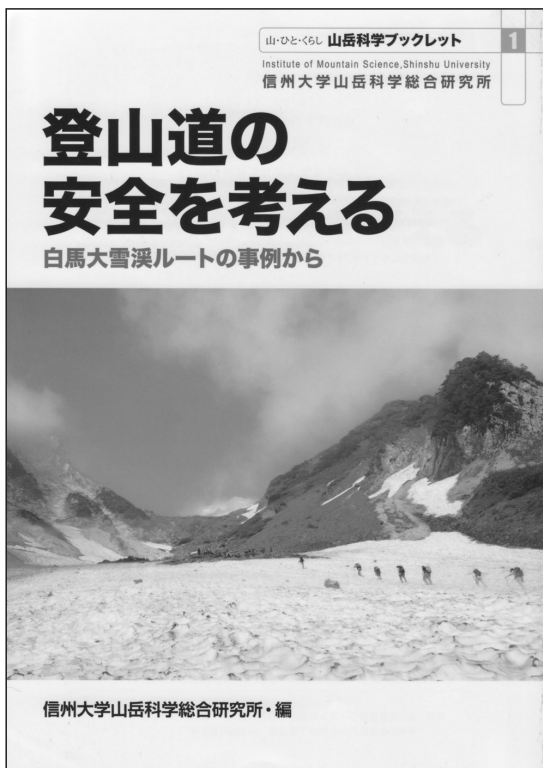
ISBN 978-4-904570-06-7

山岳地域では、痛ましい登山者の事故が数多く起こっています。天候の急変や無謀な計画、登山道周辺で起こる落石や崩壊といった地形の変化が原因です。天候の変化に比べると、落石や崩壊に関わる事故は数が少ないためか、斜面での地形変化がどのように起こるのか、あまり知られていません。そもそも、研究のレベルで、山地斜面の地形形成については、分かっていないことが数多くあります。そのため、地形・地質研究者から一般登山者に向けての情報発信はほとんどありませんでした。登山は自己責任であるとよくいわれますが、登山者が入手することができる山地の地形変化に関する情報は限られていて、ほとんど知ることができません。

山岳地域で事故が発生すると、事故の原因や登山道の管理体制について、議論が起きます。しかし、議論が十分に尽くされることなく、事故は時間の経過とともに忘れ去られていってしまいます。これは、観光地としてはネガティブな情報は積極的に発信したくないということと、問題意識を持って継続的に調査を行っている研究者が少ないといった背景があるように思われます。結果、斜面変化に関わる登山道の危険性／安全性について、これまで十分な議論は行われてきませんでした。

このような状況に危機感を持つ研究者が、2005年の白馬大雪渓での崩壊・落石事故をきっかけに、現地では、地形や自然災害の調査を開始しました。問題解決に向けて必要なのは、学術的な情報の集積とともに、行政、観光業者、研究者など関係者が集まり議論する場です。2009年2月に、「山岳地域の自然環境と人間活動との持続的な融合」を目指す信州大学山岳科学総合研究所が議論の場を提供し、登山道の安全に関するシンポジウムが実施されました。

今回、紹介するこの本は、このシンポジウムの内容をまとめたものです。一般公開のシンポジウムでの発表が基になっているため、平易な表現で書かれています。8件の発表と総合討論、そして新たに書き起こされた、「登山道の地形変化に対応するための注意ポイント」や「白馬大雪渓ルート of 自然のあらまし」という記事と、「白馬大雪渓の土砂災害履歴図」から構成されます。これらの記事から、読者は、登山道とそこでの地形変化について多面的に知ることができます。各報告を読むと、行政や観光業者、研究者といった



様々な立場の人が、どのように登山道の事故を捉えているかが分かります。総合討論でインターネットでの一般の人の意見も示されていますが、その人たちの意見も多様です。この本によって、白馬大雪渓における登山道の問題を巡る見取り図の骨格が得られたと思います。今後さらに、様々な意見を集約していくことによって、問題点が徐々に整理されていくでしょう。そういった意味でこの本は、問題解決のための第一歩といえるのではないかと思います。

現在、登山道の事故は、日本各地で発生しています。その対策は、それぞれの場所の地形・地質特性や環境、文化的背景などを踏まえたものである必要があります。しかし、議論のための基本的な情報は、圧倒的に少ないのが現状です。今後、多くの地形・地質研究者の貢献が必要となってくるでしょう。登山道の問題は、登山者の安全性という観点だけでなく、「山岳地域の自然公園をどのように管理するべきか」という、より大きな問題の中に位置付けられるべきものです。この本(シンポジウム)がきっかけとなって、各地で、議論が起こることが期待されます。

(自然保護助成基金 目代邦康)